

オンライン講座 日本史をにぎわせた女性たち II

テーマ : 「恋に生きた女性 和泉式部」

日時 : 2022年 9月 13日

講師 : 林 和清 先生

当日参加受講生: 16名 (在籍 30名) 再視聴あり

和泉式部の生涯と詠まれた歌についてお話いただきました。

* 百人一首 **あらざらむ 此世の外の思ひ出に 今ひとたびの逢う事もがな**

<意味>私はもうすぐ死んで、この世からいなくなるでしょう。あの世への思
い出として、せめてもう一度あなたにお目にかかりたいのです。

生誕から初めの結婚まで

生没年不詳。冷泉天皇皇后昌子内親王に仕えていた両親のもとに生まれ、

高貴で文化的な環境で養育され、早くから歌の才能が磨かれます。

のちに父の部下であった橘道貞と結婚し一人娘の小式部内侍をもうけます。

* 親孝行な一面を見せる歌・菊の色の衣を送り **この衣の色しろたへになりぬともしづごころある毛ごろもにせよ**

<意味>お父さんの髪の色が真っ白になってもゆっくりと落ちていて長生きしてください、この菊色の衣の毛
ごろものように。

為尊親王との恋

「大鏡」「栄華物語」より

夫が他国に赴任中、浮名を流し、冷泉天皇皇子為尊親王と恋に落ち都中のスキャンダルになります。夫と離縁
後は家族を捨てて親王との恋に邁進しますが、その親王は天然痘で亡くなり、絶望の日送るようになります。

* 為尊親王の四十九日に詠まれた歌 **うらかへ(おもへばかな)けぶりにもたちおくれたる天の羽衣**

<意味>何度も繰り返して悲しみが襲ってくる。茶毘の煙にも立ち遅れてしまった、天の羽衣のように。

敦道親王との恋

「和泉式部日記」より

為尊親王に仕えていた殿上童を通じて弟の敦道親王と親しくなり歌をよみ交わすようになります。

* 橘の枝を親王より送られて、和泉式部より **かきるかによそふるよりはほととぎすきかばやおなじこゑやしたると**

<意味>香りになぞらえるくらいなら、ほととぎすの声を聞いてみたいものです。お兄さんと同じかしら？

* 敦道親王からの返し **おなじ枝になきつゝおり(ほととぎす)こゑはかはらぬものどらざや**

<意味>同じ母から生まれた者ですから、同じほととぎすの声で変わりないと、あなたは知らないのですか？
その敦道親王を頼りに低い身分の者として宮中に上がるが、親王は若くして感染症で亡くなってしまいます。

藤原道長のすすめでその娘、皇后彰子に仕える・藤原保昌と再婚するが破綻

宮中では以前のスキャンダルのこともあり、多くの同僚はよそよそしいが伊勢大輔は親身に接してくれます。

* 伊勢大輔への歌 **思はんとおもひ(人とおもひ)におもひ(ごともおも)ほゆるかな**

<意味>あなたのことを好きになりそうな人だなと思っていたら、思ってい
た通り好きになりましたよ。(ユーモラスなリズムの歌)

出家

晩年には藤原道長が建立した法成寺の一角である東北院を与えられ、出家。

死後、誠願寺誠心院(京都西京極)に葬られました。

「煩惱即菩提」の表すように、和泉式部は死後信仰の対象になり、各地に伝説
が残っているそうです。(担当 口村)



新京極・誠心寺